

キヌサヤエンドウ「紀州さや美人」の採取時の莢状態が初期生育に及ぼす影響

1. はじめに

暖地園芸センターで育成した果梗に小ほう（ハカマ）の発生が少ない多収品種「紀州さや美人」の普及には、多くの健全な種子が必要となります。そこで、現在、採種に最適な条件を検討しています。今回は採取時の莢の状態が初期生育に及ぼす影響について紹介します。

2. 試験方法

品種：「紀州さや美人」

莢採取日：2011年5月16日

莢状態：5段階を設定

（採取後は莢のついたまま室内で乾燥）

脱粒日：2011年6月21日

冷蔵保存開始日：2011年7月13日

（粒径6mm以上で種皮の半周以上の亀裂や目立った変色がない優良な種子を保存）

冷蔵保存条件・期間：5℃・14か月

播種日：2012年9月20日

その後ハウス内で慣行栽培（2区制）



図1 「紀州さや美人」の採取時の莢状態と乾燥後の種子

3. 試験結果

（1）種子冷蔵保存後、すべての種子でカビなどの発生はありませんでした。また、2012年9月18日から、20℃暗黒条件下で発芽試験を始めると、3日後にはすべての莢状態の種子が発芽しました。

（2）生育初期の草丈と節数

草丈は1か月後、2か月後ともに莢状態1が最も小さく、登熟が進んだ莢から得た種子の方が大きくなる傾向がありました（図2）。

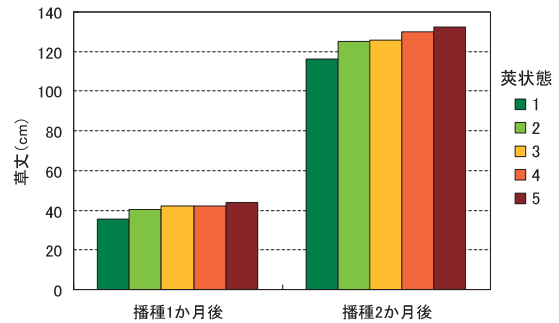


図2 採取時の莢状態が生育初期の草丈に及ぼす影響

節数も莢状態1でやや少ない傾向でしたが、他の状態と大きな差はありませんでした（図3）。

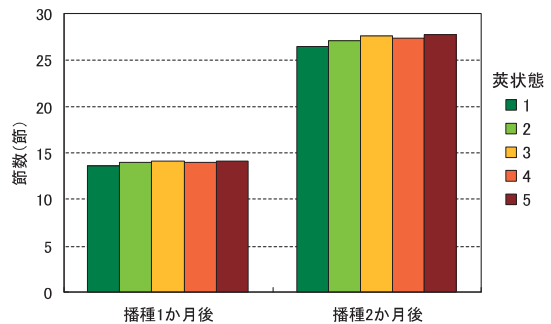


図3 採取時の莢状態が生育初期の節数に及ぼす影響

（3）開花始めと収穫始め

開花始め日、収穫始め日については、莢状態1で他の状態より3～4日遅くなりました。また、初花房節位、初収穫節位も莢状態1が他の状態よりやや高くなりました（表1）。

表1 採種時の莢状態が開花始めと収穫始めに及ぼす影響

登熟状態	開花始め日	初花房節位(節)	収穫始め日	初収穫節位(節)
1	10/22	12.2	11/3	12.5
2	10/18	11.2	10/30	11.4
3	10/18	11.4	10/31	11.5
4	10/19	11.6	10/31	11.9
5	10/18	11.3	10/30	11.6

4. おわりに

試験の結果から、莢が緑色で褐変していない状態で採取すると、生育初期に草丈が小さく、節数が少ない傾向になり、開花及び収穫が遅くなることがわかりました。さらに調査を続け、採取時の莢状態が小ほうの発生や収量に及ぼす影響を明らかにしたいと考えています。（育種部 小谷 泰之）